

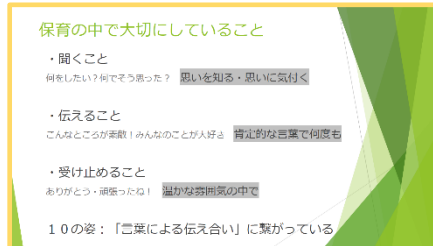
第2回協議会だより 《北方部》



令和6年10月23日（水）15:00～16:40 郡山市役所 正庁

【実践発表】 はなさと保育園

遊びを通して育まれる資質・能力について～「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」から捉える～



はなさと保育園は平成3年に就労機会及び雇用対策の一環として、郡山食品工業団地内に開設しました。保育理念は「一人一人を大切に、働く保護者の子育てを支援し家庭と園が一体となった保育を目指す」で、現在でも団地内の工場を訪問する等の交流を図っています。今回は、担任の先生から、年長組の保育を「10の姿」の視点で考察した実践事例を伺いました。先生は「聞くこと」「伝えること」「受け止めること」を心がけて保育しており、会話を楽しみながら“子どもたちがやりたい”活動を存分に取り入れてきたとのこと。例えば、新聞紙を繋ぎ合わせてエアーハウスを制作した時のこと「新聞紙では空気が漏れてしまう・・・どうしたら良いの？」と失敗に向き合いながら試行錯誤で遊びを展開した活動や「等身大の自分」を絵の具で表現した時の様子をスライドや動画で見せていただきました。絵の具を混ぜ合わせながら描く姿は真剣そのもの、担任の先生と子どもたちの関わりが、生き生きとした絵にも表れたようです。

【協議会】 グループ協議で発表に対する感想・意見交換が行われました。



☆ はなさと保育園の発表について

- ・保育士が子どもたちの声に耳を傾けることで、保育活動が広がっていくのだと改めて感じました。「聞くこと」「伝えること」「受け止めること」をこれからも続けていきたいと思います。
- ・とても丁寧に子どもに寄り添っていることや、家庭では経験できない遊びや体験を積極的に行っていることが印象に残りました。子どもたちの笑顔が良かったです。

☆ 遊びを通して育まれる資質・能力について～「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」から捉える～ 気になる子の捉え方と支援のあり方

- ・「10の姿」を焦点化するのではなく、子どもの興味・関心のある遊びを通して総合的にバランス良く経験し、身に付いていくものだと思います。
- ・気になる子の捉え方については、アプローチの仕方に苦慮している現状がよく分かりました。保護者対応や継続した支援の在り方等を話し合う場は非常に有効なので、この会は大変貴重です。

《参加者からのアンケートから》

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」は中学生にとっても大切なことで、幼児期から中学校まで一貫性を持った指導をしていくことも必要ではないかと思いました。（中学校：参加者）
- ・グループ討議では小学校や他園の実態を知ることができ、保育活動のヒントをもらいました。校長先生とも話ができて、対応の仕方が素晴らしいことと温かみを感じました。今後もこのような場をたくさん作ってほしいです。（保育所：参加者）

「協議会だより」は総合教育支援センターのウェブサイトにも掲載いたします。